

- する。
- 42 J R川崎駅に南口改札を増設する。
- 43 鹿島田地域の二ヶ領用水沿いにベンチを設置し、憩い、休息の場所をつくる。
- 44 二ヶ領用水大師堀（鹿島田）の遊歩道は定期的に除草を行う。
- 45 さいわい緑道（河原町団地横）の整備。植栽の剪定と雑草等の除草を定期的に行う。
- 46 幸区内の小中学校周辺にスクールゾーン表記する。路面表示が不明瞭箇所の点検、補修を行う。
- 47 塚越踏切から幸高校までの歩道が狭く、歩行者どうしのすれ違いで車道に出る状態、自動車の交通量が多く危険である、無電柱化を行い歩道幅を確保する。
- 48 幸区内の車道の停止線、外側線、横断歩道が消えかかって個所が多い。点検をしっかりと行い補修を行う。交通管理者に要請する。
- 49 新川崎駅利用者の駐輪場を北加瀬側（シンカモール）を増設する。
- 50 洪水時対応の一時避難場所として公設施設、民間の商業施設、ビルを使用出来るよう依頼し、近隣地域に周知する。
- 51 神明町2丁目の（国道1号線の東側地域）は地盤が低く大雨での浸水が心配される。想定される最大雨量に対して設置されている排水ポンプ吐出能力、使用の排水管で対応可能か再確認すること。

52 川崎駅西口の障害者用車両乗降場の付近にベンチを設置する。

53 多摩川に架かるJ R河川橋梁下の堤防の越水、決壊対策を行う。

54 小倉こ線橋を鹿島田こ線橋と同様に歩道拡幅する。

55 小倉こ線橋下の広場の使用ルールを明確にする。

（ゴミの始末や夜間の騒音などについて）

56 北加瀬一丁目のバス停（日吉小学校前）にベンチを設置する。

57 古市場河川敷（陸上競技場付近）に車いすで行けるスロープを古市場小学校交差点の堤防に設置する。

〔三〕 中原区

1 福祉・医療施設の整備をすすめる。

ア いまだ不足している特別養護老人ホーム、小規模特養ホーム、小規模多機能型介護施設を区内でもあらゆる方法で適地を確保し、建設する。人口急増地域である丸子地区に地域包括支援センターを整備する。

イ 2023年4月時点で、保育園の保育児童数が268人という事態を解消するため、区内全域に認可保育園の増設をすすめる。

ウ 子育て支援センターは小学校区に1カ所ずつの設置をめざす。

エ 子どもたちの居場所として重要な役割を果たしている子ども文化センターの集会室のうち、エアコンがついていないセンターに早急にエアコンを設置する。

オ 10年前から住民が要望している今井中学校地域の老人いこいの家は未だに未設置となっている。「機能重視」の考え方で転換したでは市民は納得できない。敷地を確保し整備する。

カ 住民が運行の継続を求めている井田病院行のシャトルバスがなくなつた為、新たな小型バスを活用して、住宅街でも運行できるよう新路線を設ける。

キ 国は井田病院を名指しで統廃合を提案した。国に対し抗議するとともに存続を強く求める。

ク 警察署の支所として一定の期間活用することになった上小田中6丁目の警察官舎独身寮跡地は、市民ニーズの高い保育園等の活用を県に要望しつづけ、土地の確保につとめる。

2 教育環境の改善をすすめる。

① 学校施設長期保全計画を理由に、老朽化等により各学校から出ている補修など次の要求を先送りすることなく早急に対応すること。

② 木月小学校へエレベーターの早期設置を行う

③ 給食のアレルギー対応が実施できていない期間、

下河原、木月小の三校について、実施できるよう対応を急ぐ。

④ 下小田中小学校改修の際、地域で利用できる多目的スペース、集会室を整備する。

3 毎年市民から陳情が上がる公園の樹木の剪定と草刈り、多摩川河川敷の草刈り、幹線道路の街路樹の剪定、歩道部分の整備など定期的に行なう。河川敷の土手の階段に手すりを設置して安全対策を図る。

4 文化スポーツ施設を充実させる。

ア 玉川地区ならびに新城・上小田中地域に生涯学習活動と市民活動の拠点施設を整備する。図書館分館機能も確保する。

イ 等々力緑地のPFI手法を用いた整備計画がすすめられる方針だが、地域住民要望にしっかりと応えていく。

① バックスタンド下のプールの複合化はできないことになったため、全体の敷地の中にプール設置を必ず進める。

② 遅れている釣り池のしゅんせつを検討段階から具体的化する。親水デッキを点検し、護岸と合わせ整備、蓮池を配置する。稼働基を増やし、水質保全に努める。

③ 障害者スポーツ施設を整備の候補地として検討する。

ウ 等々力下水処理場の上部の暫定利用は、市民が憩

える芝生の多目的広場に整備する。また、上部利用については再度、関係団体等を含めて協議を行ない、少年野球場やパークボール場の設置などの具体的な設置計画を急ぐ。

5

交通安全対策を強め、道路の改修をすすめる。

- ① 区内の交通事故多発地域を総点検し、交通安全対策を確立する。消えかかっている横断歩道、停止線の白線は特に通学路は優先的に整備する。
- ② 多摩沿線道路の信号機、横断歩道が設置されている付近の階段、スロープを整備する。また、手すりを設置する。
- ③ 道路危険箇所を総点検し、夜間に効果があるソーラ式の「危険と注意」を促す表示板を計画的に設置する。また、危険な交差点の「止まれ」の標識を夜間対応のものにする。
- ④ 409号線歩道のアップダウンを解消する。U字型側溝の蓋のガタつきを解消する。透水性舗装工事を急ぐ。
- ⑤ 宮内交差点歩道が整備されたところで、東電、N T Tの電柱が歩行者の妨げになって危険である。すぐに電柱の移設ができなくても、安全対策をはかる。
- ⑥ 井田2丁目の道路が広がり、中央の電柱を移設の要望がある。安全対策として、各関係者と協議を行い、電柱を撤去する。
- ⑦ 南武沿線道路全体と月大町～全龍寺の歩道部分の
⑧ 樹木が育ちすぎて、根の張り出しがひどくなり、歩道が隆起したり、沿線家屋の下まで根っこが侵入し、迷惑をかけており、それらの改善に取り組み。南武沿線道路のでこぼこ状態がひどくなった歩道について、透水性舗装打ちかえ工事（バリアフリー化）を促進する。
- ⑨ 二ヶ領用水（西下橋から高津方面）の歩道の整備を実施し、切り落としのままになっている木の株の整備計画を立てる。
- ⑩ 老木化が進む洪川沿いの「住吉ざくら」について、地域町内会、住吉観光協会と連携して保全を図る。
- ⑪ 毎年南武沿線道路沿いの街路樹であるユリの木に発生するアブラムシ・カメムシ対策の為、適切な樹木に植え替える。
- ⑫ 自転車と共生するまち中原として、一定の幅員が確保できる歩道については、「自転車専用レーン」を設置し、それができない場合は「交通ルールの見える化」として、車道に自転車の通行帯をカラー舗装し、自転車のマークと進行方向の矢印をつける。
- ⑬ 武蔵新城にはホームドアの整備が検討されているが、ホーム内は狭くラッシュ時は危険である。ホームの長さに合わせて有効に使用できるようにする。
- ⑭ 武蔵新城駅西口から駅に入る変形5差路の安全対策をはかる。

⑭ 武蔵新城駅、元住吉駅に新たな市営駐輪場を整備する。

⑮ 武蔵新城南口側、駅前バス停前の音声信号時間を、夜8時まで延長する。

⑯ 武蔵新城から400メートル離れた新城児童公園と太陽幼稚園を横断する双方の交差点に音声信号機・シグナルエイドを設置する。

⑰ 武蔵新城北口の歩道に点字ブロックが整備された。ＪＲに交渉し駅まで点字ブロックを整備する。

⑱ 大谷戸小学校の児童の通学路になっている変形5差路の安全対策をはかる。

⑲ 渋滞が発生しないように法政通り商店街から409号線を渡る交差点の信号機を含め周辺の交差点の待ち時間を改善し、歩行者が安心して横断できるように警察とともに安全対策を図る。

⑳ 旧総合自治会館から409号線を渡る人が多いため、横断歩道の整備を中原警察署に申し入れるとともに安全対策を検討する。

㉑ 中原小学校付近の府中街道歩道（小杉方面）が狭く、電柱があり車イス等が通れない。電柱の移動、無電中化等、安全対策を図る。

6 下水道整備、水路対策をはかる。

ア 台風19号により甚大な被害が発生した宮内地域（一部上小田中）の排水整備を行い、再発防止に取り組む。

イ 下水道整備完了地域のL型側溝整備を積極的に推進する。

ウ 矢上川の河川管理道路に下水本管敷設を急ぎ、水洗化を促進する。

エ 既設側溝の不完全な箇所は蓋かけをし、早急に改良する。側溝は定期的に清掃し、老朽化のはげしい側溝については改修する。

オ 台風19号により甚大な被害が発生した下沼部、上丸子山王町地域においてバイパス菅の整備が示されたが、抜本的な対策となるポンプゲートの設置等、更なる対策の具体化を急ぐ。

カ 歩道として使っている水路上にかかった溝蓋板を総点検し、ガタつきを直すためにロングパキンを敷く。また、使用していない水路の暗渠化を計画的にすすめる。

キ 下小田中四丁目アップルベールーム前の側溝を整備しL型側溝に改修する（蓋の穴を繰り返し補修している）

7 交通空白地域をなくす。

ア 実証実験をしているデマンド交通（チョイソコ）は会員登録で料金が高額である。誰もが利用できるよう市民の意見要望を取り入れ検証する。

イ 国際交流センターをアクセスし、下小田中地域を通じて武蔵小杉駅などの主要駅までを結ぶ小型バス、コミュニティバス路線を新設する。

ウ 小杉陣屋町、木月四丁目、井田三舞町、井田杉山町、下小田中三丁目、下小田中六丁目、及び井田病院周辺地域には、路線を新設する。小型バス、コミュニティバスを導入する。

エ 宮内新横浜線を利用して溝の口・新城・小杉駅バス路線を新設する。

オ 中原62系統は朝の3便となっている。日中の時間帯も運行するよう、臨港バスに要望する。

カ 2020年7月以降、平日26便から1便に大幅減便された臨港バス「川60系統」の増便を臨港バスに要望する。

8 南武線及びJR線、東急線関連では、次の施策をすすめる。

ア JR南武線は車両の増車をすすめる。

イ 横須賀線ホームはホームドアの設置を急ぐ。

ウ 南武線立体交差事業の高架下の活用は市民のための施設を最大限確保するよう引き続き努力する。

エ 御幸踏切より南側、新川崎方面へ向かう横須賀線が高架を下る際の騒音大きい。ロングレール化を図る。

オ 御幸踏切は相変わらず遮断時間が長い。エレベーター設置を検討する。

カ ロングレール化はしたと聞くが、相変わらず騒音がひどい横須賀線の高架を渡る陸橋部分に防音壁などをつくる騒音対策について、JR東日本と協

議し改善する。

キ 武蔵野南線による騒音振動対策を強化するよう、JR貨物に要請する。

ク 平間駅前踏切付近の拡幅等、更なる安全対策を急ぐ。

9 住みよい市民本位のまちづくりをすすめる。

ア 武蔵小杉駅周辺は人口増加が著しいにも関わらず、緑地の確保は桁違いに遅れている。上丸子小学校区など、中原区で公園の優先配置地区になっている7地区について、土地の買収などあらゆる方法で公園の設置をすすめる。

イ 二ヶ領用水の清流化を促進し、清掃としゅんせつ、定期的に維持用水を放流し、水質浄化をはかる。親水化未整備地域は年次計画を立てて完成を急ぐ。河川の清掃、護岸、沿道の草刈りを定期的に行う。

ウ 洪川の整備・親水化を地元住民と協議してすすめる。当面、カルガモや動植物の生態系を確保しながら、定期的に清掃・雑草刈りの作業を行なう。洪川の親水化整備に伴い、清流を活かした教育用の自然エネルギー・水力発電整備をすすめる。

エ 井田・市営バス営業所は、公共施設の併設など有効活用をはかる。

オ この間の武蔵小杉周辺再開発・超高層マンション建設では以下の対応が求められている。

- ① 再開発がすすむ小杉駅周辺は人流の増加が続くが、信号機が設置されていない横断歩道が多い。適切な信号設置を交通管理者に求める。
- ② 子どもの育ちを保障していくためにも園庭が確保された認可保育園の整備や、周辺に公園の整備をすすめる。
- ③ 周辺商店街が活力を取り戻せるように、市が知恵だしも含め、商店街との協議をすすめ、実りある成果がだせるよう努力する。
- ④ 超高層マンションの防災対策を具体化する。
- ⑤ 人口の急増に見合うこの周辺の文化施設があまりにも貧弱です。小規模な音楽ホール、映画館を事業者とも協議して、区民が気軽に利用できる文化施設を整備する。
- ⑥ 小杉全体のまちづくりに責任をもつ行政の窓口を明確にし、再開発にあたっては、川崎市の考え方を丁寧に説明し、住民の意見を積極的に聴取り、その内容を計画に反映するよう事業者に指導し、その内容含めて住民に明らかにすること。
- ⑦ 風害については、マンションなどを誘致してきた川崎市が責任をもって対応すること。
- ⑧ 今後も超高層マンション建設が計画され、小杉周辺は超過密都市になるうとしている。住宅地への建設は風害、複合日影、交通渋滞など、重大な環境破壊を引き起こす。日本全体は急激な人口減

少時代を迎え、川崎市も2030年を境に少子化時代を迎える。50年、100年先のまちづくり、人口減少社会にふさわしい人間が大切にされるまちづくりこそ求められている。高度経済成長期の規制緩和の都市再生の手法である小杉駅周辺再開発のやり方を抜本的に見直すこと。地元の意見要望をまったく反映されていないのが現状です。市が住民の立場にたつて、地元の意見要望が取り入れられる指導を重ねていく。

カ 井田山、伊勢山台など、区内に残された貴重な斜面緑地を保全するため、積極的に買取、保全協定締結などの措置をとる。特に、開発が頓挫している斜面緑地への対策を急ぐ。

キ 江川のせせらぎ水路整備事業、井田山緑地を含む区民の健康の森にかかわる維持管理計画を作成し、行政の責任を明確にし、住民の意見を反映した十分な財源措置をはかる。江川せせらぎの藻の発生・悪臭の原因を明らかにし、抜本的に水質改善をはかる。

ク 第三京浜の高架下（中原区内に隣接する区間を含めて）の騒音・大気汚染などの抜本対策をおこなう。

ケ 多摩川宮内河川敷をマウンドアップした土盛りを行なう。また、この基準面にあわせて護岸工事を計画する。

コ 河川敷のサッカー場に排水管を敷設し、水はけを良くするよう国土交通省に働きかけ、実現する。

サ 東京湾の富栄養化対策によってすすめられている下水の高度処理水化事業の進捗状況を公表するとともに、自治体負担の軽減策を抜本的にはかる。

シ 時計が未整備となっている公園については、計画的に整備をすすめる。公園にトイレの増設をすすめる。

ス 宮内新横浜線整備によって立退きをはじめ影響を受ける住民や事業者に対しては意見や要望を積極的に聞き入れて、誠意をもって対応する。

セ 雨水工事をきっかけに、短期間に3度の地盤沈下をおこなっている新城地域の地盤(地質)調査を行う。

ソ 老朽化に伴う富士通(株)建物の解体工事について、地域住民の生活環境を守り安全対策を図るよう、市として適切な対応を図る。

タ 旧総合自治会館周辺中心に二カ領用水・渋川桜並木の植え替え計画を、住民とともに進める。

チ 武蔵新城、向河原、平間、元住吉駅にも市立図書館の返却ボックスを設置する。

10 大型物流倉庫建設が予定されている西加瀬三菱ふそう跡地再開発について住環境に大きく影響が出る近隣住民の要望を聞き取り、事業者との調整、指導を行う。

〔四〕高津区

1 平瀬川の多摩川合流部の浸水対策を行う。東久地橋や平瀬橋の対策などについても住民合意のもとに計画を進めていく。

2 宮内、諏訪、二子、宇奈根排水樋管の浸水対策を行い、中長期対策も進め、浸水被害のない地域作りを目指す。

3 久地駅の橋上駅舎化を早期に実現する。

4 久地踏切に「賢い踏切」を導入する。

5 高津区の人口急増に対応した場所に認可保育園を新設する。

6 高津地区内に公有地・民有地を活用し、特別養護老人ホームを整備する。

7 平瀬第2踏切側からの津田山駅までの交通アクセスの利便を図るために、水路の上部を活用して歩行道路を確保する。

8 緑ヶ丘霊園にお彼岸やお盆などお墓参りのお客さんの多い時期だけ期間限定のミニバスの運行を2019年度以降も引きつづき行う。運行ルートやダイヤについてもきめ細かに設定する。霊園内にあずまやを増設する。

9 大山踏切の歩行者、自転車の交通安全対策のために、都市計画道路溝ノ口線の整備促進を図る。完成ま